

## 審査論文要旨（日本文）

論文提出者氏名： 赤石 雄

### 審査論文

題 名： Validity of direct ophthalmoscopy skill evaluation with ocular fundus examination simulators

（模型による眼底診察能力の評価に関する外的妥当性）

著 者： Yu Akaishi, Junji Otaki, Osamu Takahashi, Raoul Breugelmans, Kimiko Kojima, Masayasu Seki, Takayuki Komoda, Shizuko Nagata-Kobayashi, Miki Izumi

掲載誌： Canadian Journal of Ophthalmology (in press, 2014)

（審査論文要旨：日本語論文の場合 1,000 字以内・英語論文の場合 500 words）

### 【背景と目的】

実際の患者に対する直像式の検眼鏡（眼底鏡）の技能を眼底診察用模型の利用によりどの程度評価できるか測定した。また、客観的臨床能力試験（OSCE）のような実技試験における眼底鏡技能に適した評価基準の作成を目指し横断研究を行った。

### 【対象と方法】

参加者として、医学生、研修医、指導医 73 名が参加した。我々は、無散瞳での眼底鏡技能を示唆するであろう 3 つの指標を選択した。（（1）経験；無散瞳での眼底診察経験（2）頻度；眼底鏡の直近 1 ヶ月における使用頻度（3）範囲；観察できる範囲）眼底診察用模型には、瞳孔径を 3 段階（2mm, 3.5mm, 5mm）に調整できる模型を使用した。また、本研究のために研究スライドを作成した。研究スライドと模型を用い、参加者のスライド読影における各瞳孔径ごとの正解数を計測した。

### 【結果】

無散瞳での眼底診察経験数で分けたグループ間では、瞳孔径を 2mm、3.5mm に設定した場合に有意差があった。（ $P$  value=0.008, 0.007）観察できる範囲で分けたグループ間では、各瞳孔径における模型観察による正解数では有意差はなかった。（2 mm:  $P$  = 0.103, 3.5 mm:  $P$  = 0.083, 5 mm:  $P$  = 0.347）。

### 【結論・考察】

代理指標である“無散瞳での眼底診察経験数”、“観察範囲”と模型を利用した眼底鏡の技能には相関傾向があることが示唆された。また、代理指標である“無散瞳での眼底診察経験数”は、模型を利用した眼底鏡の技能と強い相関がみられた。